

戦後最大の自然災害

東北地方太平洋沖地震と巨大津波の発生

平成 23 年 3 月 11 日、午後 2 時 46 分、三陸沖を震源とする国内観測史上最大規模の M9.0 の巨大地震、東北地方太平洋沖地震が発生しました。

この地震によりもたらされた巨大津波は、1896 年の明治三陸地震を上回る遡上高 40.5m（岩手県宮古市）を記録する規模となり、死者約 1 万 8 千名、行方不明、負傷者を合わせると約 2 万 7 千名を超える人的被害という、かつて、わたしたちが経験したことのない大規模な災害となりました。

（総務省消防庁災害対策本部 平成 25 年 9 月 1 日現在）



仙台湾沿岸部の海岸防災林の特徴

古くから海岸付近の開拓には、海から内陸へ吹き込む潮風や飛砂を押さえるために、海岸防災林が必要であることが経験的に知られていました。

仙台湾沿岸では、仙台藩の開祖である伊達政宗がクロマツ林の造成を指示したことを契機に防災林作りが開始され、江戸時代には仙台藩が、明治時代以降は藩有林を引き継いだ国、宮城県、市町、地域の人々の手により、海岸防災林として造成、維持管理が続けられてきました。

こうした取り組みは、時には天災による損失、凶作時の農民救済対策などによる伐採、植樹など一進一退の中で徐々に実を結び、現在の1,000haを超える規模に至りました。

また、近年では、成長した海岸防災林が生み出す白砂青松の景観や空間が、市民の憩いの場やスポーツ施設などにも利用されるようになりました。

今般の津波により、海岸防災林は地域の人々の暮らしや生活の場とともに大きな被害を受けました。各自治体が定めた復旧・復興計画の中では、広く市民の方々に利用され、日々の暮らしの中で親しまれる海岸防災林の再生が、復旧・復興のひとつの象徴として、不可欠な要素として捉えられています。

写真提供：一般社団法人東北地域づくり協会

contents

3	仙台湾沿岸部の海岸防災林の特徴
4	仙台湾沿岸地区における海岸防災林被災概要
8	海岸防災林について
10	近年の海岸防災林造成への取り組み
12	海岸防災林の再生に向けて
14	東北森林管理局の取り組み
15	東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会
16	復旧方針
18	生物多様性保全への配慮
20	民間団体等との連携
22	海岸防災林再生の将来イメージ
24	東日本大震災の被害統計
26	報道資料